

フェリー等を一時的な宿泊施設として活用するための実証調査

目的

人口減少による担い手不足からくる宿泊施設の減少という奥尻島が抱える課題を解決するため、島に停泊するフェリーや公共施設などのリソースを一時的な宿泊所として活用するための検証を行い、実現に向けた課題の整理を行った。

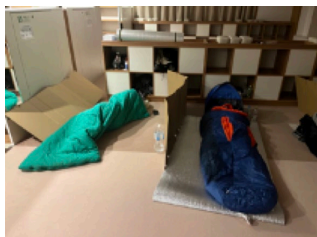
モニターによる実証調査

調査実施日 2023年12月2日・3日
参加モニター 外国人3名を含む31名

宿泊先 ①カランセ奥尻(18名) ②神居脇温泉保養所 (24名)
③あわび種苗育成センター (4名) 関係者、メディアを含め46名が宿泊



実証調査参加者



フェリー宿泊風景



神威脇温泉保養所宿泊風景

課題の整理

- ①設備課題 (洗面所等が不足)
- ②備品課題 (町内保有の数量不足)
- ③共同利用による課題 (プライバシー確保)



実現性可能な解決方法

- ①設備の不足→タイムシェアリングにより解決
- ②備品の不足→利用者の持ち込みにより解決
- ③プライバシー→ドームテント利用により解決



必要なものは参加者が持参



通常の民宿とは異なる宿泊スタイル

奥尻島の収容能力試算

～奥尻島において安全・快適に宿泊可能なキャパシティは499名～

① 民宿・旅館 (20施設)

- 最大収容人数: **409名**
- ・2食提供する民宿: 13施設/260名
- ・朝食のみ提供する民宿: 2施設/50名
- ・素泊まりの民宿: 5施設/99名

② 一時的宿泊所 (3施設)

- 最大収容人数: **90名**
- ・カランセ奥尻: 56名
- ・神威脇温泉保養所: 29名
- ・奥尻町あわび種苗育成センター: 5名

※上記以外に、各地区にある集会所や自治振興会館が活用可能になれば、さらに368名の宿泊が可能と試算される。

◆ 奥尻島に499名が宿泊する場合に必要なインフラ

カテゴリ	必要人数	提供施設数	提供可能数	充足度
夕食	239人	7施設	192人	▲
朝食	189人	5施設	390人	○
入浴	90人	1施設	30人	○
レンタカー	499人	6施設32台	142人	×

※必要数: 一時的宿泊所を含め奥尻島内の宿泊施設の最大収容人数が宿泊した際に必要となる数量

※提供可能人数: 奥尻島内の提供可能な施設の合計キャパシティ



意見交換会(2月3日)



最終報告会 (3月4日)

調査結果

○モニター

3施設のいずれもイベントなどの際の利用可能性は高い

○町内関係者

民宿等が減少していく中で、一時的宿泊施設による地域の課題解決への期待感は大きい

今後の方向性

施設の「一時的宿泊施設化」による宿泊キャパシティの増加
「離島資源×大型イベント」による島外サポート体制の構築

- 「奥尻スタイル」の宿泊という新しいカテゴリを確立する取組
- 新しい考え方を取り入れた運営体制の仕組みづくり
- 幅広い関係者が連携・協力し新しい運営体制を模索
- 運営スタッフは町内外の有料ボランティアを活用
- 来訪者と地元住民との交流機会の創出
- 研修センターや集会所など町有施設の活用可能性検討